

1
月

給食だより



令和 8 年 1 月 塩沢学校給食センター

新年明けましておめでとうございます。

今年度も残すところ、あと 3 ヶ月となりました。引き続き、毎日の給食時間が待ち遠しくなるような、魅力ある給食作りに努めていきたいと思います。本年もよろしくお願いします。

(ご家庭でお子さんと一緒に読みください)



学校給食の始まり

明治 22 (1889) 年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。大正 12 (1923) 年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。



支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和 21 (1946) 年 12 月 24 日に LARA (アジア救援公認団体) から給食用物資の寄贈を受けて、翌 1 月に学校給食が再開されました。



バラエティー豊かな献立内容に

昭和 29 (1954) 年に「学校給食法」が成立したこと、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンを中心でしたが、昭和 51 年に米飯（ご飯）が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。

このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが飢えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるように、学校給食は「教材」としての役割も担っています。



塩沢学校給食センターでは、1/26~1/30 の 5 日間 学校給食週間を実施します。

今年度のテーマは「昭和時代の食について知ろう」です。

今年 2026 年は、昭和元年からちょうど 100 年にあたる年です。昭和 29 年に学校給食法が制定されてから、今日まで学校給食も様々な変化をとげてきました。また高度経済成長期以降、私たちの食生活もだんだんと変化してきました。そんな昭和の時代の「食」について、給食を通して学びましょう。



おにぎり



五色ごはん



ミルク



コッペパン・ミルク



ミートスパゲッティ



カレーライス

